時事新報

驛遞局認可
明治十八年一月三十日 金曜日
日曜日休刊

東京圖書館

社告

○時事新報豫約御購讀被成下候ニハ新報代價並ニ郵便税ハ必ズ前金ヲ以テ御拂入被成下度候又前金相切レ候ヘハ其日限リ新報ノ遞送相見合セ候
○新報代價並ニ郵便税トシテ御送附相成候金員當方ニテ正ニ落手仕候節其都度番附ヲ以テ御通知ハ不申上其代リニ毎日御遞送申上候新報ノ帯封表面御名前ノ脇ニ(何月何日)ト記入仕置候間御覽可被成下候是ハ此日マデノ新報代價並ニ郵便税トモ御拂濟相成居ルニ付此日マデハ新報遞送仕候ト申ス事ニ候
○郵便爲替又ハ銀行爲換等ヲ以テ時事新報代價御拂入レ被成下候節當方ノ名宛ハ(時事新報社)ト致シ郵便爲換ナレバ(東京驛遞本局)ニテ受取ルベキ樣御取組被成下度候
○御住所ノ御都合ニテ郵便爲換又ハ銀行爲換等御取組被成下候儀御不便ノ御方ニ限リ時事新報代價並ニ郵便税共一錢又ハ二錢ノ郵便切手ニテ御拂入レ被成下候テ苦シカラズ候
○時事新報豫約購讀ノ諸君ニテ住所御移轉等ノタメ新報配達先キ御取替ヘ被成度節ハ新舊兩方ノ所書ヲ併テ御通知被成下度候

時事新報定價 (日曜日バカリ休刊)

一枚金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○東京十五區内並ニ横濱區内ニ限リ配達無賃○前記東京横濱ヲ除クノ外日本國内並ニ海外郵便聯約國(歐洲諸國等)ヘ御送ノ郵便税ハ一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢ノ割ヲ以テ前金ニテ申請候事

前金拂廣告料定則 一行二十四字迄

一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金八錢、十一行ヨリ三十行迄一行ニ付一日分金七錢、三十一行ヨリ五十行迄一行ニ付一日分金六錢五厘、五十一行以上何行ニテモ一行ニ付一日分金六錢、但シ六日間以上掲載ノ分ハ定則一割引十五日間以上同斷一割五歩引、三十日間以上同斷、同二割引

時事新報

外交政治社會ノ日月

政治社會ノ三箇月ハ三箇年ニ直ル(アタ)トハ現ニ目下ノ有樣ナラン竹添公使ガ朝鮮ニ再渡シタルハ去年十月下旬ノ事ニシテ朝鮮事變ノ起リシハ同年十二月四日ナリ即チ公使入韓ノ時ハ今日ヲ去ルヿ凡ソ三箇月ニシテ此間ニ日支韓三國ノ政治上ニ變動ヲ生シタルヿハ實ニ少々ナラズ公使ハ去年中歸國ノ處再ビ任所ニ赴キ十一月二日ニハ久々ニテ彼ノ國王陛下ニ拜謁シ殊ニ今度ハ日本政府ヨリ朝鮮政府ヘ特別ノ友意ヲ表スルタメニ彼ノ償金未濟ノ分四十萬圓ヲ返附スル等ニテ韓廷ノ滿足一方ナラズ又彼ノ朝臣ノ内ニテモ兼テ日本國ノ文物ヲ欽慕シ居ル輩ハ此償金返附ノ擧ヲ見テ日本政府ノ厚意ヲ一入感佩シ交情日ニ親密ニシテ餘念アルヿナシ又韓廷ノ内部ニ於テ金玉均、朴泳孝、洪英植、徐光範、徐載弼ノ徒ハ平生國王ノ信任厚クシテ時ニ國事改革ノ内命モアリシ由ノ處十二月四日郵征局ノ一擧ニ大臣閔泳翊負傷シテ變乱ノ端ヲ開キ日本公使竹添氏ハ國王ノ請求ニ應シ兵ヲ率ヒテ王ヲ慶祐宮ニ護リ同夜同宮内ニテ閔台鎬以下六大臣ノ戮セラル、アリテ金朴ノ徒ハ大ニ用ヰラレ漸ク改革ノ事ニモ着手セントスル其時ニ當リテ支那ノ兵ガ大闕ヲ攻メ日本兵ニ向テ彼レヨリ砲發シテヨリ竹添公使ハ仁川ニ引揚ゲ金朴ノ徒モ國王ニ告別シテ行方知レズ此變報支那ニ達スルヤ清廷ニテハ南陽ニ數艘ノ軍艦ヲ遣リ呉大澂ナル者ハ陸兵ヲ率ヒテ京城ノ地ニ上陸屯營スル最中ニ十二月十三日千歳丸ノ便ニテ日本ヘモ電報到來同月下旬井上外務卿ガ全權大使ノ命ヲ帶ヒテ渡韓一月八日日韓ノ談判調ヒ竹添公使ハ大使ト共ニ歸國シタリ

右ハ竹添公使ガ去年十月下旬着韓ノ時ヨリ今日マデ凡ソ三箇月間ノ紀事略ニシテ此間ニ日支韓交際上ノ變ナシト云ヘバ日本政府ヨリ朝鮮政府ニ對シテ殊更ニ償金ヲ返附スル程ノ厚意ナリシモノガ今ハ更ニ端ヲ改メテ別ニ新ニ償金ヲ促カスヿトハ爲レリ實ニ思モ寄ラザリシ事ナリ朝鮮國王ハ金玉均朴泳孝ノ徒ヲ用ヰテ大ニ國事ノ改革ニ着手セラレントシタルモノガ今ハ金朴ノ一類ハ逆賊ト爲リテ其行方サヘ知レズ韓廷ノ全權ハ歴然支那人ノ手ニ歸シテ朝鮮爲中國之所屬ノ一句ハ名ノミニ非ズシテ益其實相ヲ現ハスモノヽ如シ金玉均朴泳孝輩ノ素志ニ背クノミナラズ曾テ韓廷ノ内議モ水泡ニ屬シタルヿナラン事ノ變化遽ナリト云フ可シ、在京城ノ支那兵モ大院君ノ亂後次第ニ其數ヲ減シ既ニ去年五月ノ頃ヨリ既ニ減シタルモノヲ又半數トシテ十二月六日ノ變ニモ支兵ノ現數ハ六百内外ナリシモノガ今ハ増シテ二三千ニ達シ日本兵モ僅ニ一中隊ナリシモノガ其中隊ナ其マ、ニシテ別ニ一大隊ヲ加ヘタルハ日支相對スルノ情モ此ニ端ヲ改メタルモノニ似タリ又日支ノ交際ハ前年ヨリ台灣事件等ニテ少シク面倒ナル聞モアリシカド一時ノ風雨晴レテ痕ナク至極親睦ナルノミナラズ是レマデ曾テ一度モ兵ヲ交ヘタルヿナキモノガ去年ノ十二月六日ニハ支那兵ト日本兵トノ間ニ紛爭ヲ生シ終ニ彼ヨリ砲發ニ及ビ互ニ死傷アリタリ(十二月十五日官報)日支間未曾有ノ事變ト云フ可シ

人間社會ニ政治交際ノ事ハ昨非今是實ニ日支韓三國ノ有樣ガ僅ニ三箇月ノ間ニ斯クモ變化セントハ我輩ノ想像外ニシテ看客諸君ト雖ドモ失敬ナガラ九十日先見ノ明ハナカリシヿナラン鬼神ニ非ザルヨリ以下ハ明日ヲ知ル能ハズト自カラ思ヒ明ラムル其折柄頃日朝鮮ノ京城ヨリ一報ヲ得タルニ韓廷ノ議ハ獨逸人ニ依頼スルヿニ内決シタリ固ヨリ支那人ノ差圖ナレバ果シテ之ヲ實施スルヿナランナラン元來穆仁德(モレンドルフ)ナル者ハ獨逸政府ノ筋ニ容レラレズ支那ノ李鴻章ニ投シテ李氏ノ愛顧ヲ蒙リ其推擧ニ由テ目下朝鮮政府ニ職ヲ奉スル者ナレバ今度ハ獨逸政府ヨリ此穆氏ヲ利用シテ百事ノ周旋ヲ爲サシメ韓廷ニ勸メテ終ニ獨人ニ依ルノ議ヲ成シ其着手ノ初ハ入道金山ノ採掘ヲ獨人ニ許シ又獨逸ヨリ軍人ヲ聘シテ兵制ヲ獨逸風ニ組織スルトノヿナリ(一月廿八日時事新報事變欄内)日支韓ノ葛藤ニ治マラントシテ尚未ダ其結局ニ至ラズ頻リニ心配スル其間ニ獨逸人ハ早ク既ニ經畫スル所アルモノ、如シ此一報果シテ眞實ニシテ獨逸人ガ朝鮮ニ入込ミ兵事ニ商業ニ漸ク關係ヲ深クスルニ至ラバ今日既ニ斯クマデニ變化シタル日支韓ノ交際モ或ハ一變スルナキヲ期ス可ラズ事相ノ變幻無料ナリト云フ可シ十九世紀電氣蒸氣ノ世界ハ人事皆人ノ意表ニ出ルモノ多キガ故ニ未來ヲ想像スルハ姑ク擱キ現在ニ起リタル變ニ應スルサヘ尋常一樣ノ事業ニ非ズ政治家モ亦心配多シト云フ可シ蓋シ古人ハ三年ノ事ヲ三年ニ行フタレドモ今人ハ三年ノ事ヲ三箇月ニ成サヾル可ラズ亦多忙ナリト云フ可シ我輩ハ竊ニ謂ラク朝鮮ノ隣國ヲ促カシタル者ハ我日本國ニシテ其關係ヲ喩ヘテ云ヘバ米國人ガ始メテ日本ヲ開キタルモノニ異ナラズ加フルニ日本ト朝鮮トハ海上ノ路モ近クシテ往來モ便利ナレバ日本人ノ朝鮮ニ在ル者ハ他ノ諸外國人ニ對シテ恰モ東道ノ主人ト爲リ自カラ以テ我外交ノ一助ニモト豫期シタルニ何ゾ料ラン今日ハ是レ交際ノ親疎ニ論ナク遠近ト其交リノ新舊トヲ問フヲ許サズ東道ノ主人却テ東道ノ客タルノ奇觀モアランカト思ヘバ心甚ダ愉快ナルヲ得ザルナリ然リト雖ドモ電氣蒸氣ハ他人ノ專有ニ非ズ他ニ任シテ他ノ便利ヲ成ス程ニ我レニ取レバ我ガ用ヲ爲ス可シ其用ヲ爲スト爲サヾルトハ電氣蒸氣ノ罪ニ非ズシテ之ヲ用ル人ノ氣力ニ在テ存スルノミ我輩ハ今日尚我同胞有爲ノ氣力ヲ信ジテ疑ハザルモノナリ

雜報

○先帝御例祭 本日は孝明天皇の御例祭に當らせ給ふを以て聖上ゟは午前八時宮中靈殿及賢所へ出御遊ばされ御親祭を執行在らせ給ひ畢て兩皇后宮よも御參拜遊ばされ夫より皇族、大臣、參議、麝香間祗候、勅任官へ參拜仰付らるゝ御都合あるよし

○皇子御參内 前號ゟ記しまひらせたる如く皇子明宮には昨廿九日午前十時中山邸を御出門ゟて赤坂假皇居へ御參内在らせ給ひ午後三時過還御遊ばされたり

○交際費 内閣顧問は内外紳士の交際少なからざるが爲め其筋より現任黒田伯ゟ俸給の外時々交際費を下賜さるゝ事になりたるよし

○大山陸軍卿 今度歸朝せし大山伯は近日賜暇を得て野州鹽原の温泉へ入浴の都合なりと

○國書捧呈 田中特命全權公使が國書捧呈れため伊國皇帝に謁見したる次第は大略左の如し

伊國皇帝には毎年恒例の如くモンザ離宮ゟ滯輦あらせらるゝが昨年夏中も亦右離宮に滯輦十一月廿三日還輦あらせられ同二十九日(土曜日)を以て國書捧呈のため謁見すべき旨日本公使館に申達あり當日午後一時十五分前式部官一員迎接のため王宮の馬車を以て來館したれば數分時にして田中公使は其車に乘じ王宮ゟ至る書記官黒川誠一郎、同山内勝明、同バロン、シーボルト書記生加藤増雄の諸氏之に隨從し宮門ゟ入るや衛兵一隊銃を捧げて敬禮を階を上り一室ゟ入る舍人整列す次室に入る親兵銃を捧げ敬禮す又二室を過ぐ式部頭並ニ迎接せり誘はれて廣間ゟ入る宮内卿、侍從長、其他式部官駢立一々握手の禮を行ふ少時ゟして式部官正殿の扉を開き公使を誘ふ公使は通辯のため書記官山内勝明氏を隨へ三揖して進みたり公使は言上並に皇帝の勅語は左の如し

恭ク外臣就任ノ國書幷ニ先任ノ解任狀ヲ捧呈ス外臣今此ノ重任ヲ帶ビ親シク天顏ニ咫尺シテ其旨ヲ奏上スルヲ得ルハ寔ニ無限ノ光榮トスル所ナリ

勅語

卿ガ特命全權公使トシテ我ガ國ニ駐箚スルハ固ヨリ朕ノ嘉納スル所ナリ今日卿ニ面會スルハ朕ノ最滿足スル所ナリ

朕ハ貴國ニ我ガ國民ト……
民ヲ親愛スル苟ニ……
ルニ足ラン且卿ノ……
シメンヿ亦先任……

公使は左の如く答て……
陛下ノ寵眷ヲ辱……
ノ確信スル所ナ……
新任の書記官書記生……

○共使代理 大山陸……
員不在中の代理は右……
代理と心得居る都合……

○轉任の噂 目下歸……
範氏は近日參事院議……
るも元老院議官田邊……
何にや

○黎氏歸國 清國前……
發の玄海丸に搭して……
員と昨廿九日我大臣……
ゟさり

○發途 小澤陸軍少……
ヒラレ、樂長ル、ー……
遊就館に招請して饗……

○射的會 東京鎮臺……
山よ於て射的會を催……
日執行の筈なり

○法術巡廻 高木司法……
島、長崎の四控訴裁判……
發の都合なりと

○官廳黨報 大藏省准……
日同省主税局に於て第……
山形縣士族齋藤篤信氏……
任御用掛(月俸金三十……

○出京 砲兵第二方面……
山局在勤工部少書記官……
京したり

○米國總領事 横濱在……
休暇を得て去る廿七日……
しに付不在中副領事ス……

○ホース氏歸國 亞米……
すべき前の海軍兵學校……
付同校副總理及教官は……
新橋停車場迄見送る都……

○石黒五十二氏 内務……
二氏は沙防工事御用よ……
せられ同地近傍川々の……

○出張 天野陸軍砲兵……
せられたり

○米國農務省 米國元……
務を管理する衙門を新……
に班せしむるの議を可決……

○虎列剌病の紀念碑 ……
列剌病の最も盛んなりし……
覺せられ親しく豫防の方……
行爲を永く同府人民の記……